イエスのことば　第 35 回

夕方になったとき、舟は湖の真ん中にあり、イエスだけが陸地におられた。イエスは、弟子たちが向かい風のために漕ぎあぐねているのを見て、夜明けが近づいたころ、湖の上を歩いて彼らのところへ行かれた。そばを通り過ぎるおつもりであった。しかし、イエスが湖の上を歩いておられるのを見た弟子たちは、幽霊だと思い、叫び声をあげた。みなイエスを見ておびえてしまったのである。そこで、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。（マルコ 6：47～50 ）

□イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言（紀元 27 年の春、過越の祭り）を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架（紀元 30 年の春、過越の祭り）、復活、昇天

□文脈の確認

1. 前回から、転の部、弟子訓練に入った。十字架まで、1 年余。
2. 紀元 29 年の春、過越の祭りの頃から、同年の秋、仮庵の祭りまでの、約 6 か月間において、イエスは、異邦人の地域へ 4 回、旅行した。それまで宣教活動の拠点としていたガリラヤ地方は、先駆者ヨハネを殺害した領主ヘロデ・アンティパスの領域である。ヘロデ・アンティパスは、イエスの行動を注視していた。
3. 異邦人地域への 4 回の旅行は、退避と休息の時であったと同時に、弟子たちの訓練を目的とした。指導者層によるメシア拒否の結果、神の国のプログラムは、【奥義としての神の国】の段階に入った。弟子たちは、メシアが地上におられない中、奥義としての神の国の時代を生きていかねばならない。そのための訓練が必要である。
4. 異邦人地域への旅行第 1 回：ガリラヤ地方を離れて、別の領主ヘロデ・ピリポⅡ世の領域（ガリラヤ湖の北東地域、ユダヤ人の人口は少数）の町ベツサイダの近くへ。
   (1) ヨハネの福音書は、次のように記す。「ユダヤ人の祭りである過越が近づいていた」（ヨハネ 6：4)。時は、紀元 29 年の春、過越の祭りが近づいていた。メシア宣言からちょうど 2 年、イエスの公生涯において 3 回目の過越の祭りである。
   (2) イエスの公生涯において過越の祭りは 4 回。この 3 回目だけ、イエスはエルサレムに行かなかった。指導者層によるメシア拒否の直後だったからである。しかし、まだ多くの民衆がイエスについて来た。前回は、「五千人の給食」と呼ばれる奇跡の出来事であった。
5. 「五千人の給食」を通して何を弟子たちは訓練されたのか。次の 2 点であった。
   (1) 群衆に食べ物を自分たちで与える必要が生じることがあり得ること。しかし、自

分たちにはその力はない。必要なものは、イエスが与えてくださる。しかも、イエスが与えてくださるときには、思いもしなかったものを用いてくださる。弟子たちの役割は、イエスが与えてくださるものを受け取り、配分すること。そのためには、前もって群衆を組にして座らせておくこと（秩序）。

(2) ここでのレッスンは、パンや魚の食べ物を与えることであったが、この教えは、霊的な食べ物を与えるという弟子たちの本来の使命につながる。

ヨハネ 6：27　***なくなってしまう食べ物のためではなく、いつまでもなくならない、永遠のいのちに至る食べ物のために働きなさい。それは、人の子が与える食べ物です。***

6. 今回は、「五千人の給食」の奇跡の直後に起きた出来事である。給食を受けた群衆（ガリラヤ地方のユダヤ人たち）がイエスを王に擁立しようとするが、イエスはその動きを拒み、弟子たちだけを舟に乗せて出発させた後、湖上の嵐の中で起きた出来事である。嵐の中で、弟子たちはどのような訓練を受けたのであろうか。

□山で「五千人の給食」をした日の夕方から、次の日の明け方まで、湖上での出来事

項目	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ
1．夕方になって湖畔に下りて、弟子たちだけ舟に乗り込ませ、西側のベツサイダを目指して出航。	14：22	6：45		6：16～17a
2．イエスは群衆を解散させようとしたが、群衆はイエスを王に擁立しようとした。イエスは山へ退き祈った。	14：23	6：46		6：14～15
3．日没後、強風が吹いて湖が荒れた。	14：24	6：47		6：17b～18
4．夜明け近くになって、イエスが湖上を歩いて舟に近づいて来た	14：25～27	6：48～50		6：19～20
5．ペテロが湖上を歩くも沈みかける	14：28～31			
6．イエスが舟に乗り込み、目的地に着いた	14：32～34	6：51～53		6：21

□イエスは、民衆による王擁立の動きをやめさせた後、弟子たちを嵐の中で訓練した

1. ヨハネ 6：14　群衆は、ガリラヤ地方のユダヤ人たちである。彼らは、イエスを「この方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と宣言した。これは、申命記 18：15～18 の「モーセのような預言者」を指す。この預言者が現れたら、イスラエルの民はどのようにするように、モーセは命じたか？　申 18：15

2. ヨハネ 6：15　群衆は、イエスを王に擁立しようとした。なぜ、イエスは、それを受けなかったのか？

   (1) 神の国のプログラムとの関係から（この時点は、メシア王国としての神の国が提供されようとしていたのか、それとも、それは将来の世代のイスラエル民族に先送りされ、奥義としての神の国の時代に入っていたのか？）

   (2) メシア預言との関係から（群衆の動きを受けるなら、イエスはガリラヤ地方で王として立つことになる。メシア預言では、メシアが王として立つ町はどこか？）

   (3) 群衆の本音との関係から（ヨハネ 6：26）

3. マルコ 6：48　弟子たちは、どのくらいの時間、嵐の中で漕ぎあぐねていたか？　イエスはそれを見ていたが、すぐに助けたか？

4. マルコ 6：48　イエスは通り過ぎようとされた。「通り過ぎる」という表現は、旧約聖書のどういう場面を連想させるか？　参照　出 33：22、34：6、Ⅰ列 19：11

5. マルコ 6：49　イエスが湖の上を歩いておられるのを見た弟子たちは、幽霊だと思い、叫び声をあげた。夜中、嵐で荒れ狂う湖上を、歩いている人影を見て、彼らは、【死の使いが来た。自分たちが死ぬ時が来た】と恐れたのであった。マタイ 14：26 には、「恐ろしさのあまり叫んだ」とある。
   マタイ 14：27　弟子たちが叫んだとき、イエスはどうされたか？

6. マタイ 14：28～31　ペテロは水の上を歩く体験をした。このような出来事は、旧約聖書のどういう場面を連想させるか？　参照　出 14：21～22、Ⅱ列 6：6

7. マタイ 14：33　嵐の中での訓練を通して、弟子たちはイエスをどのようなお方として理解したか？